

(財) 自治体国際化協会ロンドン事務所マンスリートピック (2012年9月)

地元企業の外国での求人活動を支援する市町村

ドイツの幾つかの地方では、特定の能力や資格を持っている人材が不足している。場合によっては、職業教育の制度において、企業の職業訓練のポストにも十分な応募がないこともある。主に南ドイツの中小企業が多い地域ではこのような傾向が見られる。ドイツの中小企業は、世界トップクラスの企業もあるが、地方だけで活躍する企業もちろんある。この地元企業の求人活動を市町村も支援している。

バーデン・ヴュルテンベルク州の州都シュテュットガルト市から90キロ北西方面にあるシュヴェービッシュ・ハル市は、その一例である。同市は、人口3万8000人であり、同名の郡全体の人口は18万8000人である。就業率が高く、全地域での失業率は3.4%に留まっている。ある新聞記事¹によれば、2012年初めごろでは、9000件の求人広告があったが、この地域を担当する連邦雇用庁の事務所によれば、2012年2月では、1589件の求人広告があった。しかしながら、特定の技術や資格を持っている高い教育基準の職員を探していたことも明らかであった。地元の求人要求を把握した上で、現在では経済危機を背景に、スペインやポルトガルなどの南ヨーロッパの国における失業率、特に若年の失業率が非常に高いことに配慮し、シュヴェービッシュ・ハル市の市長は、市や郡所在の企業のために、ギリシャ、スペイン、ポルトガルやイタリアから7人のジャーナリストを招聘し、広報活動を行った。ポルトガル出身の記者が書いた記事は「ディアリオ・エコノミコ」という経済新聞に発表された後、インターネットでも広く読まれた。この記事は市についてとてもポジティブなイメージを描いたこともあり、市役所、商工会議所、そして連邦雇用庁の事務所には1万件を越える応募がポルトガルから入った。また、何人かは直接ポルトガルからシュヴェービッシュ・ハル市まで来て、就職活動を開始した。しかし、数ヶ月後、全体的には20人ほどしか就職できなかったことが明らかとなった。理由は、実際の空き

¹ [http://www.welt.de/wirtschaft/article107156839/Zu-wenig-Suedeuropaer-
finden-den-Weg-in-den-Norden.html](http://www.welt.de/wirtschaft/article107156839/Zu-wenig-Suedeuropaer-finden-den-Weg-in-den-Norden.html)

ポストには、かなり質の高い能力が要求されたほかに、応募した人の中では、ドイツ語や英語の能力も不足していたことが挙げられていた。

ドイツの他の地域では、高い技能職員の不足というよりも、企業で職業訓練を受ける若い人が不足している問題がある。特に東ドイツの州では、ドイツ東西統一直後には、出生率が1990年から1994年の間で激しく減少したため、今となっては職業訓練を開始する年齢の青少年の数が少なくなっていることが大きく影響している。人口構造全体の問題の他に、若い人の中で義務教育の後に職業教育に進むより、大学志望者の割合が高くなっているという問題もある。ドイツの「2重制度」いわば「マイスター制度」は、企業での職業訓練と職業学校での理論的な教育を組み合わせた制度であり、2.5年から3.5年までの間で多様な分野において、広く認められた資格が取得できることを意味する。それは、パン職人や美容師から、IT専門家や劇場照明技術者まで、非常に広い分野に及ぶ。ドイツの大学にも3年間で習得できる学士（Bachelor）が導入されて以来、大学や専門大学に進学する人々の数が増加中である。社会的には、ヨーロッパの他の国と同じように大学卒業の割合を高めることが望ましいのか、それとも伝統的な利点であった「2重制度」を重視すべきなのかが現在議論されている。今まではドイツでは英国、スペイン、フランスなどと比べて、大学卒業者の割合が低い一方で、若年層の失業率も低かった。

現在の職業訓練の空きポストを埋めるため、エアフルト市（テューリンゲン州の州都、人口20万9000人）やデッゲンドルフ郡（チェコの国境に近い混合の経済構造を持っているバイエルン州の郡、11万7000人）のような様々な地方自治体から、ハンガリーやルーマニアに自治体代表や地元の商工会議所からなる使節団が派遣され、若い人の募集に努めている。これらの国々では、ドイツ語を習得する伝統がまだあるため、職業訓練のためにドイツに来ることに不自由しない若者はかなり多いが、それでも外国からの学生・職員には特別な支援が必要であり、ドイツ人学生と比べれば、企業や行政には新たな負担があることは否定できない。

2004年までは、職業訓練の空きポストをめぐって応募者同士の競争が激しく、空きポストも不十分であったため、連邦や州の政治家は、企業がより多くの職業訓練の空きポストを提供するように様々な政策を練ったが、こうした時代は終わっている。逆に企業には、職業訓練生の確保のため、今までなかった努力が求められている。また、もともと職業訓

練を受ける十分な人を見つけることが難しい分野もある。小売り業、ホテルやレストラン業など、勤務時間が長い上に給料が割合安い業界では難しいとされている。

しかし、このように資格を持っている職員や職業訓練を始める人が不足しているという見方の裏で、逆に現在でもドイツでは資格を持っていない人はまだたくさんいると証明する数字もある。連邦職業訓練機構（BIBB）の数字によれば、20歳から29歳で144万人は資格がなく、34歳まででは220万人にまで上る。このうち、40万人は義務教育を終了していない。しかし、義務教育や高等教育を終了しても、資格を重視するドイツの労働市場では、その次のステップが最も重要であり、職業訓練を終了するか、専門大学や大学を終了しないと、就職の可能性が極めて限られている。29歳までの人々で資格を持っていない割合はここ数年間で約15%前後となっており、2008年に連邦政府及びすべての州政府の間で合意された、この数字を2015年までに半減させるという目標は達成できないことが明らかである。このグループのすべての人が無職であることではないが、資格を持っていない人は安定した職に付くことが少なく、ほとんどは収入や条件が望ましくない分野のみでの就職となる。生涯においては、資格を持たない人は深刻なハンディーンを負っている。

つまり、職業訓練ということについては、雇用主側からの、「職業訓練を受ける人が足りない」という主張に対して、実際には「職業教育が受けられない人の数が多い」という事実の間でかなりのギャップがある。

参照

Die Zeit online, Lehrstellen: Auf Azubisuche in Bulgarien, 9.8.2012

<http://www.zeit.de/wirtschaft/2012-08/lehrstellen-deutschland/komplettansicht>

BBC online, Schwabisch Hall: German town in PR talent drive, 14.8.2012

<http://www.bbc.co.uk/news/magazine-19209086>

Der Spiegel im Internet, Zwei Millionen junge Deutsche ohne Ausbildung, 28.8.2012

<http://www.spiegel.de/wirtschaft/soziales/dgb-studie-zwei-millionen-junge-deutsche-haben-keinen-berufsabschluss-a-853097.html>

Die Welt online, Jugendarbeitslosigkeit: Zu wenig Südeuropäer finden den Weg in den Norden, 23.6.2012

<http://www.welt.de/wirtschaft/article107156839/Zu-wenig-Suedeuropaeer-finden-den-Weg-in-den-Norden.html>

Manager-Magazin online, Anwerbeaktion: Schwäbisch Hall lockt 10.000 Portugiesen, 29.2.2012

<http://www.manager-magazin.de/politik/deutschland/0,2828,818415,00.html>